

平成 25 年度第 1 回 八王子市市史編さん審議会 会議録

会 議 録

会議名	平成 25 年度第 1 回 八王子市市史編さん審議会	
日 時	平成 26 年 3 月 21 日（金）午前 10 時 00 分～午前 11 時 40 分	
場 所	生涯学習センター（クリエイトホール）第 6 学習室	
出席者氏名	委 員	松尾正人会長、相原悦夫副会長、池上裕子委員、上田幸夫委員、 小此木正貴委員、落合隆委員、沼謙吉委員、前田成東委員、 光石知恵子委員、渡邊秀雄委員
	理事者	
	説明者	穂坂敏明市史編さん室長、齋藤和仁市史編さん室主幹、 長谷部晃一市史編さん室主査
	事務局	（説明者のほか）佐藤広市史編さん室専門管理官、 秋山和英市史編さん室主査、齋藤義明市史編さん室主任
欠席者氏名		
議 題	1.『新八王子市史』編さん事業の進捗状況について 2.平成 24 年度刊行物についての意見交換 3.その他	
公開・非公開 の別	公開	
傍聴人の数	なし	
配布資料名	1. 資料 1 平成 25 年度市史編さん事業の組織体制 (平成 26 年 3 月現在) 2. 資料 2 市史編さん事業における刊行物刊行実績及び計画 3. 資料 3 市民講座の開催 4. " いちよう塾への講座提供 5. " 学生ボランティアの活用・インターンシップの受入	

1.開会

【松尾会長】平成 25 年度第 1 回市史編さん審議会を始める。
審議会委員は全員出席、傍聴者はなし。
会議録署名は上田幸夫委員にお願いする。最初に室長から挨拶をお願いする。

【穂坂室長】本日は審議会に出席いただき感謝する。
昨年 4 月の着任以来、初めての審議会となり挨拶が遅れて申し訳ない。50 年に一度の編さん事業に携わることができ、うれしく思っている。八王子・多摩のリーディングシティにふさわしい市史編さんを目指したい。

【松尾会長】新しく委員になった 2 名を事務局より紹介する。

【齋藤主幹】町会自治会連合会より出席していた平塚委員が逝去したことに伴い、新たに八王子町会自治会連合会の東部の連合会会長上田幸夫様にお願いした。

【上田委員】町会自治会代表の上田幸夫です。よろしくお願いします。

【齋藤主幹】続いて、八王子商工会議所の専務理事であった内田委員が退任したことに伴い、新たに八王子商工会議所の専務理事の落合隆様にお願いした。

【落合委員】八王子商工会議所専務理事の落合隆です。よろしくお願いします。

【松尾会長】よろしくお願いします。

2.『新八王子市史』編さん事業の進捗状況について

【松尾会長】『新八王子市史』編さん事業の進捗状況について、事務局より説明する。

【齋藤主幹】初めに事務局の組織変更があった。昨年 8 月 26 日付の組織改正により、「総合政策部市史編さん室」から平成 29 年度までの臨時組織としての「八王子市市史編さん室」に変更となった。体制については、平成 25 年 4 月の時点で職員を 1 名増員。それから、各部会ごとの専門員に加え、資料整理担当の専門員を 1 名増員した。平成 29 年度事業終了まで、この体制の予定だ。また、部会長・部会委員・専門調査員・調査員等については、182 名となっている。刊行計画については、今年度は「資料編 2 中世」、「資料編 6 近現代 2」、初の本編となる「自然編」を刊行予定だ。順調に計画どおり進んでいる。

【松尾会長】市史編さん専門員（嘱託員）が 7 名となった。資料整理担当が一人増えた。専門部会については 182 名となっている。それから、組織そのものがこれまでと変わって、市長直属のところに移る。

【松尾会長】次に刊行計画について。平成 25 年度は「資料編 2 中世」、それから「資料編 6 近現代 2」、そして本編になるが「自然編」。この三つが非常に大きな出版ということになる。

【松尾会長】進捗状況全体で何か質問はあるか。
(なし)

3.平成 24 年度刊行物についての意見交換

【松尾会長】「平成 24 年度刊行物についての意見交換」に入る。

【齋藤主幹】平成 24 年度刊行物『新八王子市史』の資料編 2 冊について説明する。

まず、資料編 1「原始・古代」は、旧石器時代から平安時代までの主要な延べ 166 遺跡について、カラー写真や図版を用いる。発行部数 1,500 部、A4 判で 702 ページ、販売価格は 1 冊 5,000 円だ。

次に「資料編 3 近世 1」は、現在の八王子のまちの原形が形づくられた近世・江戸時代の資料を、今回初めて発見した資料も含め 567 点掲載している。発行部数は 1,500 部、A5 判 990 ページ、販売価格 1 冊 3,000 円だ。

その他に『新八王子市史』の民俗調査報告書第 2 集、「八王子市東部地域 由木の民俗」を刊行。発行部数 1,800 部、A4 判で 357 ページ、1 冊 1,000 円で販売している。

さらに、市史研究の第 3 号は、発行部数 2,000 部、A5 判 163 ページ、1 冊 500 円で販売している。

頒布は、市内の小学校、中学校、高校、大学、都内の公立図書館などへ無償で配布し、市役所の市政資料室、八王子駅南口総合事務所、郷土資料館、市史編さん室等で販売をしている。「由木の民俗」に関しては、由木の 3 事務所、由木、由木東、南大沢事務所でも販売している。

それから、新たに平成 25 年度からの新規事業により、くまざわ書店八王子店（JR 八王子駅北口）、石森書店（元八王子 四谷の交差点）、磯間書店、ブックランド島村書店（西八王子駅そば）の 4 店舗での書店販売を始めた。

【松尾会長】刊行物についての意見交換を始める。

【小此木委員】本のサイズ、規格だが、「原始・古代」はA4、それ以外はA5とサイズが倍違う。今後の本編は、サイズ・規格とも統一するのか。

【齋藤主幹】歴史の部分にかかわる本編は、全て同一サイズで統一する。

「原始・古代」資料編と「自然編」「民俗編」のサイズが違う可能性があるのは、「原始・古代」に関しては、文書資料が非常に少なく、遺物・遺構を中心とした資料編としたり、また、「自然編」は本編1冊しか出さないこともあり、フルカラーで八王子の自然を見てもらい、「民俗編」についても、できれば少し大判な写真を豊富に入れたいという事情があり、「原始・古代」の資料編、「自然編」と「民俗編」、この3冊が判型が変わる計画だ。

【齋藤主幹】本棚に並んだ時に、『新八王子市史』がきれいに全部ならんだほうがいいと言う議論も当然あったが、今申し上げた3冊については、市民にこういったものを見せたいという部会の気持ちや『新八王子市史』としての構えや格、「八王子市史」として50年間残る本になるようなものということで決まった経過がある。

【上田委員】今回特に、資料編は、カラーのいい写真や図版等で非常に見やすく出来ている。特に私が気に入ったのは「民俗編」だ。恩方のものは、非常に読み応えがあった。私は現役のころ学校に勤務していたが、子どもが興味をもつ内容も多く、校長会等でこれをPRしたら学校で非常に活用できると思う。

【渡邊委員】デジタル資料はあるのか。

【齋藤主幹】将来的には使える可能性もあるし、市としても残していきたい。本としてつくったものをデジタルとして保存していくのとは別に、今後、本に付録としてDVDを付け、刊行する予定だ。学校の授業でも使いやすいような形で編集上も考えている。実は、市内の中学校1か所から、ぜひ授業で使いたいとの話をいただいている。各クラスで授業をしたいというような熱心な先生からお話をいただければ、積極的に相談を受けながら補助資料を提供したい。そういう活用をしていただけるのは、我々の事業に大事なことだと思っている。現実に総合学習の時間などに使い始めている学校もある。

【沼委員】「原始・古代」の資料は素晴らしい。まさに50年後を考えて作ったと言ったとおりの出来だ。それから『新八王子市史』の「近世」と「近現代」の目次が、節の見出しと資料の見出しのところで、活字の区別がつかない。内容では製糸織物・養蚕の「桑都」であるとか、八王子の医療と言えば秋山義方父子の活躍した蘭学、さらに、八王子の開祖、大久保長安の資料が少ないと感じた。

【光石委員】「近世」に多少、関係があるのでお話をさせていただく。長年、資料に関係してきた立場として、あまり近世では「桑都」と言われていないし、「桑都」らしい資料はそれほどない。大久保長安に関しても、資料が非常に少ないのだ。

【齋藤主幹】「近世」については、資料編がもう 1 冊、2 が出る予定になっている。指摘があったところは、部会の中でも議論になっていて、指摘されたあたりが、資料編 2 の中心として取り上げている箇所だ

【佐藤専門管理官】「近世」が一番困難だったのは、重要な資料の行方とか所有関係が明らかにならず、掲載不可能というものが多々あった。

【相原副会長】市街地の部分は、昭和 20 年の戦災で相当が焼けている。わずかに残っているのは第二小学校と数校のみ。全部フォローするというのはなかなか難しい。

【沼委員】年号の扱い、西暦と元号はこれからどう進んでいくのか。

【齋藤主幹】現在、市史編集委員会において、通史についての執筆要綱を論議しているところだが、市史としては元号が先で、括弧書きの西暦と考えている。

【松尾会長】最近では元号を一般でといった意見も多いが、歴史的なものになってくると、括弧して西暦という書き方が多い。市史はどうか。

【齋藤主幹】現在は、市の刊行物を全部統一的で同じに書くようにということにはなっていない。

【渡邊委員】日本の歴史は元号である程度の雰囲気がある。しかし、室町時代や鎌倉時代は西暦がないと感覚がつかめない部分がある。やはり両方併記で、元号が先ではないか。

【前田委員】現代の場合、例えば、本文を記述しているときに「55 年体制」と出てきたら、それは 1955 年なので西暦を使っている。「80 年代は地方の時代」と出てきたら 1980 年代ということになる。一方で、次のページをめくったら「昭和何十年代には」と書かざるを得ない場合があるので、多少混在するのは仕方がないと考えている。

【松尾会長】元号が歴史用語になっている「文久政変」とか出てくるので、括弧を入れて両方がわかるようになっている。

【相原副会長】やはり近世だと、「安政の大獄」なんていうのを、これを西暦だったらどうなのだと「1858年の大獄」だとどうもしっくりいかない。やはり日本語の持っている個性というのは、そういうところに出ているのではないか。

【小此木委員】細かいところだが、「近現代」の資料編で写真が冒頭何ページかに出ているが、ほとんど建物で、お祭りが1件あるぐらい。他に写真がなかったのか。

【松尾会長】あの写真を見ると、当時としてはなかなかモダンな建物だなと思ったりする。

【小此木委員】建物というか、もし町並みの写真があれば一番いいのだが。

【前田委員】町並みの写真は、いくつかは本編の中にも必ず入ってくると考えている。北口に織物タワーというのがあったが、どこかには載せておく必要があると思う。

【松尾会長】刊行物についての意見交換をしてきたが、事務局から何か補足があるか。

【齋藤主幹】刊行物を出すたびに、新聞記事等でも比較的大きめに掲載をしていただける状況がある。そういう意味では、非常に堅調に推移している。市民の皆さんの興味、関心もあると販売をしていて感じる。

4.その他

【松尾会長】4.その他へ入る。

【長谷部主査】かわって私から説明する。

市史編さん室と生涯学習センター共催で、毎年、市民講座を開催している。平成25年度は自然部会の担当をお願いして、「八王子の自然を学ぶ」と題して3回連続の講座を開催。2月7日は「八王子の植生について」の講義をしていただき、63名が出席。2回目は「八王子の哺乳類について」というテーマで、19名の方が出席。最終の第3回目は、2月21日「八王子の昆虫について」講義をしていただき、42名が出席した。

毎年、各部会をお願いして講座を開催しているが、新たに今年度からは、刊行された本の執筆者に本の内容を読み解くという講座を実施しており、クリエイトホールの市民自由講座ということで、12月に3週連続で実施した。

【渡邊委員】八王子の歴史で100名以上の方が毎回出られているが、この手の講演会では多い方なのか。ほかのところは大体50名とか60名だ。

【長谷部主査】歴史に関心のある市民が多く、出席者は 115 名だが、申込みはもう少し多かった。読み解く講座は、火曜日の日中、2時から4時の2時間で、事前申込制だ。

【前田委員】チラシを見ると、受講料が 600 円となっている。これは資料代か。

【長谷部主査】そのとおり。生涯学習センターが毎週実施している市民自由講座の中で企画された。

【渡邊委員】この講習会は、スライドを使わない資料のみの講習か。

【長谷部主査】資料とパワーポイントのスライドを使っている。

【渡邊委員】今後も刊行に合わせてやっていくのか。

【長谷部主査】生涯学習センターと協力をして、実施していけたらと思っている。

【松尾会長】出版に合わせてこういう機会をつくっていくと、非常に市民へのアピールになる。さらに、委員とはまた別の形のフリーな意見や感想が聞ける。いちよう塾への講座提供の説明をお願いします。

【長谷部主査】いちよう塾も毎年、市史編さん室から講師を紹介して、講座を実施している。4月27日から8月24日は、市史編さん研究協力員の馬場喜信氏に「街道から考える八王子の歴史」について説明していただいた。6月29日は、自然部会の内野秀重氏に「ハチオウジアザミの自然学」ということで「ハチオウジ」と名前がついた、多摩丘陵で発見された新たな種についての説明をしていただいている。7月27日は「八王子の考古学史」を原始・古代部会の服部敬史氏にお願いした。9月21日については、民俗部会から2名、入江氏と加藤氏に八王子の民俗について講演してもらった。

【松尾会長】「学生ボランティアの活用・インターンシップの受入」について。

【長谷部主査】東京工科大学と八王子市の間で協定を結び、6名の学生が、ボランティアとして資料整理、歴史資料の燻蒸の手伝いをした。また、8月中旬には、チャレンジインターンシップということで、東京大学及び國學院大学の学生2名に市史編さん事業の仕事を体験してもらった。市史編さん事業を理解していただき、今後に活かしてもらいたい。

【松尾会長】何か全体で意見があるか。

【渡邊委員】全体のスケジュールを考えたときに、一番厳しかった25年度を終えたような気が私はしている。

【齋藤主幹】率直な感想として、この先はずっと山だと思っている。今日お越しいただいている池上委員には今、まさにご苦勞をかけているところで、各部会で良い本を出そうと本当に必死でやっていることが我々にも伝わってきている。もうずっと山ぐらいのつもりで事務局も頑張らなければいけないと思っている。

【相原副会長】所定の10年計画の中で完了させる、そういう形で事務局の方も多分一生懸命やっていると思いますから。

【松尾会長】なかなか大変な仕事だ。八王子市は市としても、面積を含めて巨大だ。ほかの多摩地域の市町村とは桁が違うので、実には大変だと思う。

【相原副会長】中核市論議が出ているが、中核市に指定後、年史関係を刊行するのはおそらく八王子市が初めてだ。そういう意味でも今後、ますます注目されるのではないか。

【松尾会長】事務局から、ほかに連絡事項はあるか。

【穂坂室長】今日は本当に感謝している。貴重な意見をいただいた。年号の話なども議論いただいたが、市史編集委員会でも、皆様が心配されている部分も含めて、市民に分かりやすい形での表記を議論している。

【松尾会長】市史編集委員会は大変スケジュールが難しい中でご尽力いただいている。市史編集委員会も日本の歴史研究者のトップクラスの人たちが入っている。それだけの委員会なので、市民の皆さんのいろいろな意見もよくわかっていながら、最大限の努力をしていただいている。

5.閉 会

【松尾会長】これで閉会とする。

平成26年3月21日 会議録署名人 上 田 幸 夫